

次世代へつなぐ日台の強い絆

常務理事・高座日台交流の会会長

石川 公弘
いしかわ きみひろ

◆仲の良い姉妹のような日台関係

昨年五月九日開催の台湾高座会留日七十周年歓迎大会には、参加者から多くの好意的な感想が寄せられた。その中に、舞台女優の一青妙さんの文章を発見、ある種の衝撃を覚えた。一青さんは「台湾高座会の人たちのような積み重ねがあつて、今日の日台関係が成立している。二人姉妹であるせいか、私は日台関係を互いに助け合う姉妹のような関係と思う。東日本大震災では、台湾が姉となつて困難な中にある日本を助け、台中地震では、日本が姉になり真っ先に救援隊を送つてく

れた。この仲の良い姉妹のような素晴らしい日台関係のため、私も力になりたい」という。

一青妙さんの日台姉妹論を読み、私は「親しき仲にも礼儀あり」という言葉を思い出した。東日本大震災に当たり世界一の支援をしてくれた台湾へ、私たちは十分に礼節を尽くしたのか。台湾からの災害支援金は、赤十字や大使館など公的機関を通じてのものだけで二百億、その他に台湾の仏教・慈濟会は、震災直後、直接被災地へ入り、一世帯当たり平均五万円を手渡ししていた。その総額は八十五億円に上る。これほどまでの支援に対し、当時の

民主党政権はどう対応したのか。国交がないという理由で、慰霊祭でも正式の外交団扱いせず、献花の列にも加えなかったのである。

◆「台湾で歌つてもいい」根岸博士

台湾高座会歓迎大会が無事に終了した五月下旬のある日、私はノーベル化学賞受賞者で同級生の根岸英一博士夫妻と会食する機会を得た。その席で根岸博士はその手を私の掌の上に置いて「石川、君の親父さんの遺志もあるのだろうか、今回あなたのしたことは本当に素晴らしい」と評価してくれた。人の拳を包むようにして語る、彼の

とう台湾チャリティー演奏会が具体的にになった瞬間だった。

◆台湾高座会との共催決定

昨年六月十七日、李雪峰・台湾高座会会長の叙勲をお祝いするため私たちは台北を訪れた。

陛下が李会長へ旭日小綬章を授与されたことは、李会長はもとより台湾高座会の皆さんの戦中戦後の労苦を、日本という国家が正式に認めたもので、留日七十周年歓迎大会に華を添えるものだった。伝達式は交流協会台北事務所で行われ、高座日台交流の会からも役員五人が参加した。

お祝いの席が一段落したところで、私たちは李会長に「ありがとう台湾チャリティー演奏会」の計画を示し、協力を要請した。すると、協力を快諾されただけでなく「私たちが台湾高座会も日本の被災された人たちが元気になるよう更に応援したい」といわれた。もちろん大歓迎である。



開催前にオペラ歌手の古川精一氏（左）の指導で練習する根岸英一博士（中）と李遠哲博士（右）

アメリカ流の語り方には少し戸惑ったが、私を驚かせたのは、根岸博士の次の言葉だった。「あの大会の日に、オペラ歌手の古川精一さんから本格的な歌の勉強を勧められた。嬉しかった」という。古川さんは根岸博士に「少し勉強すれば、一流の歌手になれる」と励まし、根岸博士は歌を本格的に勉強する気持ちになったらしい。

私はとっさに「じゃー、古川さんに頼んでみるから、レッスンの成果を台

湾で発表してくれないか」と尋ねた。彼は躊躇なく「いいよ」と応じてくれた。古川さんに連絡すると「自分から勧めたことでもあり、時間の許す限り協力する」という。

◆「ノーベル賞の李遠哲は私の従兄」

それから数日を経た六月一日のことだった。私は早稲田大学日台稲門会の懇親会に出席、台湾校友会の陳光敏会長と隣り合わせた。そこで、台湾高座会歓迎大会のアトラクションでノーベル賞の根岸博士に歌ってもらったことや、根岸博士が台湾のノーベル化学賞受賞者である李遠哲博士を非常に尊敬していることを話した。

すると、陳会長がさりげなく「李遠哲は私の従兄です」と言う。陳会長とは長いお付き合いだが、そんな話は一度も聞いたことがなかったので、びっくりした。台湾への熱い思いを抱く古川歌手とノーベル賞の根岸博士。それに台湾の国民的英雄・李博士。ありが

その際、台湾側から「南相馬ジュニアコーラス合唱団MJC」が指名された。台湾側は、MJCが被災の悲しみの中から見事に立ち直り、ローマ法王の前で合唱したことまで知っていた。厳しい環境の中から見事に立ち直り、逆に多くの人々を元気づけているMJCの若い女生徒たち。ありがとう台湾演奏会の主役として、これ以上ふさわしいグループがあるだろうか。

帰国後、私たちはすぐ出演交渉のため福島へ向った。好都合なことに橋本理吉事務局長も、岩本武夫副実行委員長も福島出身で、岩本さんは甥の岩本久人さんが福島県双葉町議会の副議長だった。そこで岩本副議長に、MJCを結成した指揮者の金子洋一さんとの面会をセットしてもらい、福島出身の二人と真鍋藤正副委員長と私の四人で伺い、協力いただくことになった。

◆古川さんの人脈で広がった出演者

しかし、「ありがとう台湾チャリテ



チャリテイ演奏会で合唱する南相馬市の「MJC アンサンブル」(4月1日、台中市・中山堂)

イー演奏会」の主役は、バリトン歌手の古川精一さんだ。古川さんとの出会いは、呉正男・前横浜華銀理事長からの紹介だった。古川さんは岩手県花巻の出身で、東日本大震災への台湾の心のもった支援に感動、台湾各地で感謝の音楽活動をされていた。

古川さんの台湾への感謝の演奏活動は、当然のことながら、台湾音楽界へ知己を広げていた。台湾での古川さんの演奏会に出席された桃園県中壢青少年

される災害状況は、一九九九年に台湾で発生した九二一大地震を思い出させ、私は刃物で切り裂かれるような、心の痛みを感じました。

被災された日本人の人々が見せた節度ある行動、献身的な自己犠牲は、まさに武士道精神そのものでした。それを世界中の人々が称賛したのです。

その一方で、日本での震災発生の一報に接した台湾の人々が、わがことのように心を痛め、物心両面での支援を



チャリテイ演奏会には1500名も詰めかけ大成功だった(4月1日、台中市・中山堂)

惜しまなかったことを、私は台湾人の一人として誇りに感じています。台湾の多くの人々が日本に思いを寄せた結果、全世界でも類をみない義援金となったことは皆さんご承知の通りです。こうした日本と台湾の人々の密接な絆の礎には、戦時中、まだ幼さを残す年頃に日本内地へ渡り、戦闘機の製造に従事した高座会の皆さん、そしてそれを支えた日本の皆さんの存在があり、戦後七十年近く経っても色褪せることのない交流があるのです。

◆友好を次世代へつなぐ中高生競演

演奏会当日、六時に会場となった台湾・台中市の中山堂へ行くと、すでに会場前の広場は人であふれていた。そして、演奏会も期待に反せず、素晴らしい出来映えだった。

クライマックスは、最後の「花は咲く」の全員合唱だった。二人のノーベル賞学者を中心にした日台の老壮青少年百五十名による大合唱は壮観だった。

年管弦楽団の指揮者・山路譲さんは、武蔵野音楽大学で先輩後輩の関係だった。山路さんは長い間、台湾で音楽の指導をしていることで幅広いネットワークをお持ちだった。そこから中壢青少年管弦楽団と、三年前の世界大会で優勝している名門合唱団、国立台湾師範大学音楽学部の女性コーラス「幕声合唱団」の出演が決まった。

それを、日台が誇る二人のノーベル化学賞の根岸博士と李博士がサポートするという豪華キャストである。最終段階でさらに福島の津軽三味線・平野流家元、平野緑城門下の皆さんも加わった。舞台上上がる人だけで総勢百五十名以上。司会進行は一青妙さんをお願いした。彼女のバイリンガルによる司会は流石に見事なものだった。

◆李登輝元総統からの祝辞(要旨)

〈二〇一二年三月十一日、午後のニュースに写しだされた日本の惨状は、今でも忘れることが出来ません。次々報道

それは、日台の良好な関係を次世代へ引き継ぐことを予感させた。NHKはラジオ深夜便でこのニュースをいち早く流し、六時と七時の朝のテレビのトップニュースでも放送してくれた。台湾では、やはり根岸博士が話題の中心で、テレビに何度も登場していた。

神奈川新聞は、四月十五日から五回にわたり「高座の情」を連載、「フィナーレ」は出演者全員が合唱した。花は咲く。だ。東日本大震災復興支援のチャリテイソング。歌い上げると、日本から駆け付けた二百人を含む千五百人の観衆から、大きな拍手が沸き起こった。台中市の日台交流コンサートは、今日の良好な日台関係を次世代へつなぐものとなった。日台の中高生がステージで競演した」と報じた。

最後に今回の国境を越えたイベントの橋渡し役、種々の困難にめげず、常に笑顔で尽力してくれた台湾在住の檀上典子さんに謝意を表したい。